

平成24年度自己評価最終評価報告書

石川県立内灘高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判断基準	備考	最終評価	分析・改善策等
1 基本的な生活習慣の確立を図るために、カウンセリングマインドによる指導を推進し、一人ひとりに対し適切な生徒指導に努める。	① 積極的な声かけ・挨拶を通じて、円滑な人間関係の構築を図る。	全教職員	【成果指標】 自ら進んで挨拶をできる生徒の割合	挨拶ができた生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C・Dなら検討	7月末及び12月に調査 生徒 教員	生徒調査 88.8% 評価 B 教員調査 59.3% 評価 D	中間評価に比較して生徒調査で2.8ポイント、教員調査で10.8ポイント向上した。挨拶を返すことはできる。自ら進んで挨拶をすることもかなり向上したが、教員評価で目標達成までには至っていない。指導を継続・拡張していく。
	② 遅刻・欠席防止のために、家庭との連携を密にする。	生徒課 各担任	【成果指標】 一人あたりの年間遅刻回数	一人あたりの年間遅刻回数 A 2.5回未満 B 2.5回以上 C 3.0回以上 D 3.5回以上	C・Dなら検討	7月末及び12月に集計 生徒課	一人あたりの4月～12月遅刻回数 3.49回 評価 C	生活習慣の乱れからくる寝坊や体調不良が理由の上位であるが、保護者の送迎による遅刻（道路の渋滞等）も多い。遅刻常習者への個別の指導だけではなく、今後は全体に対する遅刻防止のキャンペーンや、保護者への協力依頼等も取り入れて指導していく。
	③ 生活に関する各種調査をもとに生徒や保護者の自覚を促す。	保健課 生徒課 各担任	【努力指標】 生活調査と意識調査等を計画的に行った回数	調査回数が A 4回以上 B 3回以上 C 2回以上 D 2回未満	C・Dなら検討	5月末及び12月に調査 保健課	4月～1月の調査回数 3回 評価 B	朝食アンケート2回、生活習慣アンケート1回、計3回行った。他に計画的ではないが随時必要な調査も行った。保健だよりも発行したが、次年度は調査結果の保護者への還元をより工夫していく。
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶指導は大切である。先生に対する信頼感や挨拶や笑顔から生まれる。 ・遅刻指導については何か仕掛けができないか。 ・遅刻常習者への指導はもちろんであるが、まじめに出て来ている生徒への褒賞を考えて、褒めて育てる。 ・調査内容を健康度をはかるような内容のものに変えて行ってはどうか。 						
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶指導を継続・拡張していく。 ・遅刻指導については全体に対する遅刻防止のキャンペーンや、保護者への協力依頼等も取り入れて指導していく。 ・次年度は調査回数ではなく調査内容を重視し、生活習慣について健康度をはかるような調査をおこなう。 						
2 基礎学力の定着とともに発展的学習を取り入れることにより、多様な生徒に対して向学心及び学習意欲の喚起を図る。	① 基礎学力の定着のために授業の進め方や授業内容の工夫改善を図る。	教務課 各教科	【成果指標】 個に応じた指導や教材、教具の工夫によって、授業内容がよく分かったと答える生徒の割合	授業がわかりやすいと感じた生徒の割合 A 80%以上 B 60%以上 C 40%以上 D 40%未満	C・Dなら検討	7月末及び12月に調査 生徒	生徒調査 87.0% 評価 A	生徒調査で、わかりやすい授業が行われている。本校生徒の状況にあわせた教材の工夫が行われているが、学習意欲を高め、生徒が主体的に学習に取り組む姿勢づくりにさらなる改善が必要である。生徒の学習理解の度合いを測るような日々の取り組みが今後の課題である。
	② 年間を通して、全教師が互いの授業を参観し、授業改善に取り組む。	教務課 各教科	【成果指標】 参観後の評価を集計し、生徒の主体的活動がみられた授業の割合	集計後の割合が A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	C・Dなら検討	12月に調査 教員	教員調査 93.5% 評価 A	生徒の個々の実態に応じた発問の工夫や、活発に生徒が発言できる授業づくり等、生徒集団にあわせた授業改善が行われている。今後もお互いに指導方法を共有しあう機会を設けるよう努めたい。理解力がある生徒や学力不振の生徒に対する細やかな指導工夫が今後の課題である。
	③ 課題・宿題等について工夫するとともに、提出を徹底させる。	教務課 生徒課 各学年	【成果指標】 課題・宿題等を期日までに提出する生徒の割合	提出状況が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C・Dの場合、指導法を検討	7月末及び12月に調査 生徒 教員	生徒調査 85.1% 評価 B 教員調査 80.7% 評価 B	日々の指導で、ほとんどの生徒が期日を守り課題を提出できている。一部の生徒については粘り強く指導することで、最終的に提出することができるようになっている。しかし自宅学習については習慣化されているとは思いがたい。復習のための小課題など工夫が必要である。
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力について、個別指導を行っている授業はないのか。 ・教師が授業を互見し、授業改善に取り組むのは良い試みである。 ・思った以上に課題の提出状況は良い。小テストをもっと取り入れてはどうか。 						
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導を行っている授業はないが、少人数による習熟度別授業などをより充実していく。 ・基礎学力の向上、わかりやすい授業への改善については、これからもさらに工夫をして学校全体で取り組んでいく。 						
重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判断基準	備考	最終評価	分析・改善策等

3	早期に進路意識の高揚を図るため、適宜、具体的な進路情報の提供と、志望進路実現のための支援体制及び支援内容の充実に努める。	①	3年間を見通した指導計画に基づき、能力・適性に応じた支援・指導を行う。	進路課 各学年	【成果指標】 自分の進路に関心を持つようになり、将来を前向きに考えられるようになった生徒の割合	進路意識が向上した生徒が A 80%以上 B 60%以上 C 40%以上 D 40%未満	C・Dなら検討	7月末及び12月に集計 生徒	生徒調査 75.0% 評価 B	調査数値を見れば目標達成であるが、生徒自身の意識や行動がどのように前向きになったのか、分析が必要である。そのことを踏まえての今後の進路指導を進めていかなければならない。
		②	ハローワークや地域の企業等と連携して、就業の支援・指導を行う。	進路課 各学年	【成果指標】 就職決定率	就職希望者の決定率が A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満	C・Dなら検討	2月に調査 進路課	実数調査 2月18日現在 96.3% 評価 B	次年度以降、この時期に未定者を出すことの無いように、3年間を通じての内灘ベーシック等の学び直しの学習による基礎学力の向上、求人状況説明会等の就職情報の早めの提供による進路意識の養成を図っていく必要がある。
		③	授業や学校行事等で、コミュニケーション能力向上に資する体験学習を行う。	総務課 各学年 各教科	【努力指標】 コミュニケーション能力の向上に資する保育所訪問やボランティア活動などの取組回数	年間の取組み回数が A 10回以上 B 8回以上 C 6回以上 D 6回未満	C・Dなら検討	7月末及び12月に調査 総務課	4月～12月の調査回数 47回 評価 A	各課、学年、教科等で多くのことに取組んだ成果である。目標値が低かったこともあるが、基準値を上げて、さらに取組んでいきたい。
学校関係者評価委員会の評価				<ul style="list-style-type: none"> ・就職決定率が高く良好である。残りの未定者の決定に力をいれることが必要である。 ・報告を見ると、学校は様々なことに取組んでいる。いいことである。 						
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策				<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の向上、進路意識の向上を目指した取組みをさらに強化していく。 ・今年度取組んだ課外講座をさらに充実させ、コミュニケーション能力の向上に資する活動に取組んでいく。 						

4	保護者・地域社会との連携を深め、課外活動やボランティア活動等をとおして地域に貢献する態度を養う。	①	学校への関心・理解を深めるため、PTA総会や学校公開週間、文化祭等の参加者を増加させる。	総務課 教務課	【成果指標】 PTA総会、文化祭、学校公開等の来校者数	来校者の延べ数が A 180名以上 B 150名以上 C 120名以上 D 120名未満	C・Dなら検討	12月に調査 総務課	4月～12月の調査人数 343人 評価 A	課外講座等の導入により来校者数は飛躍的に伸びたが、それは訪問者を呼ぶ機会が増加したためでもある。次年度はPTA総会等の単一の行事においても来校者数が増えるように取組みたい。
		②	地域活動へ積極的に参加するのみならず、地域と連携した課外活動やボランティア活動を企画・実践する。	生徒会係 各部顧問 総務課	【努力指標】 地域と連携した活動の回数	地域と連携した活動の回数が A 12回以上 B 10回以上 C 8回以上 D 8回未満	C・Dなら検討	2月に調査 生徒会係 総務課 進路課	4月～2月の調査回数 29回 評価 A	限られた生徒が何回も続けて活動するのみならず、もっと多くの生徒が課外活動やボランティアに積極的に参加するにはたらきかけたい。
		③	地元中学校との交流を企画し、体験入学などを通して本校をPRする。	教務課 総務課	【成果指標】 体験入学や学校公開等に参加する中学生の延べ数	中学生の来校者数が A 70名以上 B 50名以上 C 30名以上 D 30名未満	C・Dなら検討	12月に集計 教務課 総務課	4月～12月の調査人数 34人 評価 C	評価Bまであと16人不足であった。バスケットボール部は中学生との交流を2度行っているが、本校の体育館ではなくカウントされていない。直接中学生を呼ぶ行事企画はもちろんのこと。部活動の活性化や中学校の先生方との授業参観や意見交換等、交流機会を増やしていくことによって生徒の来校者数も増やしていきたい。
学校関係者評価委員会の評価				<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの募集を学校に要請してもよいのか。その際の安全上の問題はどのようになっているのか。 ・医科大との連携はできたか。 ・部活動の活性化が必要である。 						
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策				<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアは学校全体や生徒会などで参加する以外は原則個人参加であるが、しっかりした計画のもとで安全に配慮して行う。 ・課外講座において医科大と連携して看護体験講座を行ったが、次年度も継続して行う。 ・部活動については工夫をして活発化していきたい。 						